

ダイヤランド住民の皆様へ

ダイヤランド自主防災会

九州の熊本地方で、4月14日そして16日と立て続けに起こった最大クラスの大地震！！
亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された全ての方々に、心からのお見舞いを申し上げ、一日も早い終息と復興を祈りたいと思います。

災害はいつ起こるかわかりません。明日は我が身に降りかかるかも知れません。
日々の生活の中で忘れられがちな災害の備えについて、もう一度真剣に確認と準備をし、「自分の命は自分で守る」行動を心がけなければなりません。

ダイヤランド自主防災会では、災害への心構えと準備について、以前よりお知らせしてきましたが、今回あらためてポイントをまとめましたので、これらを参考にそれぞれのご家庭で検討していただき、その時に安全で素早い対応が出来るよう、今一度考えていただけたらと思います。

1. 災害発生前の備えは出来ていますか

(1) 家具の固定

背の高い家具は固定しましょう。天井の強度は充分か、壁の裏に材木が渡っているか。
テレビは数メートル飛ぶこともあるので、寝るときにはテレビとの位置関係にも注意しましょう。

(2) ガラスの飛散防止策

ガラスに飛散防止フィルムを貼るのが効果的です。最低カーテンを閉めておくことでも効果があります。破片でケガをしないよう、寝室に靴などを置いておく工夫も大変有効です。

(3) 食料・水その他の備蓄

最低5日分の食料や水の備蓄が必要です。(別表1を参照下さい)

(4) 非常持ち出し袋の準備

いざという時のために、非常持ち出しの準備をしておきましょう。(別表2を参照下さい)

2. いざ災害が起こったら ⇒ 自らの命を守る行動を

(1) 屋内にいたら

倒れかかる家具などから身を守るため、座布団等で頭を保護しながら、テーブルや机の下に駆け込んでその脚の部分を押さえましょう。
さらにドアを開けるなど脱出路を確保し、懐中電灯の明かりも確保しましょう。

(2) 屋外にいたら

建物やブロック塀の倒壊や倒木、窓ガラスの落下などの危険を避けて、空地などの安全な場所に避難しましょう。

3. 被害の拡大を防ぐ行動を

(1) 火災の拡大を防ぐ

地震の際、火元の確認と初期消火に務める事は、被害の拡大を防ぐ基本です。

まずは身をかばった後で、ガスの元栓を締めましょう。 又、大地震の際にストップしていた電気の供給が再開された時に、つけっぱなしの電気ストーブや壊れた電気製品の漏電で火災が発生することが少なくありません。(これを「通電火災」といいます)

避難する際には、必ずブレーカーを落としましょう。

(2) 交通の混乱を防ぐ

自動車の利用は、災害が起こると救急・救助活動や消火活動の妨げとなるので、出来るだけ避けましょう。 自動車を運転しているときに災害に遭遇した場合には、道路の端に停車し、ラジオなどで情報の収集を図りましょう。

車を離れて避難するときには、救助・救援の支障とならないよう、キーをつけたままにしておきましょう。

4. 身の安全を確保したら

(1) 安否確認旗(黄色い旗)を玄関先の確認しやすい場所に掲げましょう。

(2) 各地区で決められた集合場所に移動、又は係の誘導に従い行動しましょう。

5. 助け合いの行動を

身体の不自由なお年寄りや身体障害者の方・小さな子供達などは、避難の際に周りの手助けが必要です、自らの身の安全を確保するとともに、手助けを必要とする方への援助が、災害時には大いに求められます。

6. 安否の確認

(1) 家族の集合場所・連絡方法

予め家族みんなで集合場所を決め、外出先にいる場合の連絡方法を確認しておくことが必要です。

(2) 災害用伝言ダイヤル

災害時には、通話が被災地に集中し電話がかかり難い状況になります。

そこで導入されたのが災害用伝言ダイヤルです。「171番」の番号でガイダンスに従って音声メッセージを録音しておく、家族などが「171番」をダイヤルして聞く事ができます。

以 上

別表1

大規模な地震災害が発生してライフラインが止まった場合、公的な支援が行き渡るまでに家族の生命、健康を維持する為に以下のようなものを準備しておく必要があります。

■ 飲料水	1人1日3リットルが目安 家族2人で 2リットル ペットボトル 10本～15本（飲用のみで3～5日分） （ほかに トイレ用、洗い物用に貯め水が必要です）
■ 非常食	保存期間が長く火を通さなくても食べられる食品（レトルト食品、クラッカー、カンパン、缶詰 など安価な日用品をストックして、古いものから消費していけば良い） 保存期間2年～5年のものが理想的
■ 医薬品	常備薬、三角巾、ガーゼ、脱脂綿、絆創膏、ハサミ、ピンセット、消毒薬、整腸剤 持病のある方はその病気のための薬（お薬手帳必携）
■ 停電時用	懐中電灯、ろうそく、マッチ、携帯ラジオ、予備の電池
■ 衣類	重ね着の出来る衣類、防寒具、毛布、下着類、靴下、軍手、雨具、カイロ

別表2

いざという時のために、非常持ち出しの準備をしておく事が重要です。避難するのに負担にならないように、リュック等に入れ、最小限にまとめておきましょう。

飲料水	（500mlペットボトル数本）
非常食	（クラッカー、カンパン、ゼリー状の食品など）
医薬品	（消毒薬、絆創膏、ガーゼ、解熱剤、三角巾、胃腸薬、持病のある方はその薬） ※お薬手帳は必携
衣類(防寒具)	・ 懐中電灯 ・ 携帯ラジオ ・ 乾電池 ・ 貴重品 ・ 現金(硬貨)
保険証	・ ローソク ・ マッチ ・ ライター ・ ビニールシート ・ ナイフ ・ ハサミ
タオル(大小)	・ 洗面用具 ・ 簡易食器セット ・ ウェットティッシュ ・ ビニール袋
雨具	・ 筆記具(油性マジックも) など